



文化庁委託事業「2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

主催：文化庁／協同組合 日本映画・テレビ美術監督協会 制作：協同組合 日本映画・テレビ美術監督協会

第19期 Part 2



映画のまち調布
シネマフェスティバル
2020

映画美術スタッフ塾

2020年2月29日(土)～3月3日(火)

調布たづくりに
「羅生門」が蘇る!!

羅生門

日本映画・テレビ美術監督協会
創立80周年記念企画



世界が認めたあの「羅生門」が現代に蘇る！

SCALE 1/10

【映画のまち調布シネマフェスティバル 2020】とコラボ開催!!

開催期間：2020年2月29日(土)～3月8日(日)／展示会場：調布市文化会館たづくり1F エントランスホール

【スタッフ塾上映作品および講師】

- | | |
|------------------|----------------|
| 2/29(土) 「羅生門」 | 講師：安藤 篤 (美術監督) |
| 3/1(日) 「幕末太陽傳」 | 講師：深民 浩 (美術監督) |
| 3/2(月) 「金環蝕」 | 講師：丸山裕司 (美術監督) |
| 3/3(火) 「陽のあたる坂道」 | 講師：竹内公一 (美術監督) |

同時開催!!

日本映画・テレビ美術監督協会
創立80周年記念企画イベント



映画美術スタッフ塾



文化庁委託事業「2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」 第19期 映画美術スタッフ塾 Part 2

【上映作品およびタイムスケジュール】

※注 2/29 のみ上映会場が、2F くすのきホール になっています。
3/1 ~ 3/3 の受付及び講座室については後日の確認とします。

2/29(土) 「羅生門」 1950年8月公開 提供：(株)KADOKAWA 88分 講師：安藤 篤 (美術監督)

- 受付／09：00～
8F映像シアター前
監督：黒澤明、原作：芥川龍之介、脚本：黒澤明、橋本忍、撮影：宮川一夫、美術：松山崇
出演：三船敏郎、森雅之、京マチ子
- 試写／10：00～
2Fくすのきホール
日本映画としてヴェネツィア国際映画祭において金獅子賞とアカデミー賞名誉賞を受賞した。これにより日本映画は、世界的に評価されることとなり黄金期へと入っていくことになる。
- 講座／13：00～
8F映像シアター
ストーリーは、平安時代の京の都、戦乱と疫病の流行、天災で人心も退廃を極めていた。荒れ果てた羅生門で3人の男たちが雨宿りしていたとき、その内の2人が実に奇妙な話を見聞きしたとして、もう一人の下人に語り始める。

3/1(日) 「幕末太陽傳」 1957年7月公開 提供：日活(株) 111分 講師：深民 浩 (美術監督)

- 受付／09：00～
※後日もしくは、当日案内
- 試写／10：00～
8F映像シアター
監督：川島雄三、脚本：川島雄三、今村昌平、田中哲一、撮影：高村倉太郎
美術：中村公彦、千葉一彦、出演：フランキー堺、南田洋子、石原裕次郎
- 講座／13：00～
※後日もしくは、当日案内
日活はこの前年に「太陽の季節」と「狂った果実」の2作品をヒットさせ同時に太陽族なる人種までも生み出す新風俗現象を巻き起こしていた。ストーリーはオリジナルだが落語「居残り佐平次」の主人公を拝借、それに古典落語を繋ぎ合わせたものである。ジャズドラマー出身の堺が扮する佐平次が、映画全編の舞台となる旅籠「相模屋」を舞台に庶民の視線と心情を貫き通しており、「日本喜劇映画の金字塔」とまで称賛された川島雄三監督の代表作である。

3/2(月) 「金環蝕」 1975年9月公開 提供：(株)KADOKAWA 155分 講師：丸山裕司 (美術監督)

- 受付／09：00～
※後日もしくは、当日案内
- 試写／10：00～
8F映像シアター
監督：山本薩夫、原作：石川達三、脚本：田坂啓、撮影：小林節夫、
美術：間野重雄、今井高司、出演：仲代達也、宇野重吉、三国連太郎、京マチ子
- 講座／13：00～
※後日もしくは、当日案内
石川達三の長編小説で、九頭竜川ダム汚職事件がモデル。
保守政党の現総裁にして内閣総理大臣と最大派閥の一騎打ちとなった。両陣営とも票集めに多額の実弾を投入、激烈な選挙は僅差で現総裁の三選で幕を閉じた。数日後、宇野重吉が扮する金融業を営む石原参吉の元に、内閣秘書官が秘密裏に資金の用立てに訪れる。この事に石原は直感的に何らかの疑惑を感じとる。

3/3(火) 「陽のあたる坂道」 1958年4月公開 提供：日活(株) 189分 講師：竹内公一 (美術監督)

- 受付／09：00～
※後日もしくは、当日案内
- 試写／10：00～
8F映像シアター
監督：田坂具隆、原作：石坂洋次郎、脚本：池田一郎、田坂具隆、撮影：伊佐山三郎
美術：木村威夫、出演：石原裕次郎、北原三枝、芦川いづみ
- 講座／13：00～
※後日もしくは、当日案内
1957年12月より読売新聞に連載。原作の石坂によれば、本作を書き出した時は全く頭になかったが、執筆中に実在の人物に当てはめたほうが良いと思い、石原裕次郎の存在を頭に置いたという。石原裕次郎が扮する主人公の田代信次は、田代家の次男として画家を目指していた。その人柄は、粗野で無作法だが優しい性格の持ち主であった。しかし、芸者の子として生まれ田代家に引き取られたことで家族に対しては特別な感情を抱いていた。

参加費 全日程 ¥5,000/1日 ¥1,500

★会場：調布市文化会館たづくり★

※参加のお申込は、当協会ホームページの申込書式に必要事項を記入の上、送信して下さい。
参加費は、現金で当日会場にてお支払い下さい。尚、当日のみ参加の方も会場にて受付致します。



当協会のTwitter・Facebook・Instagramのダイレクトメッセージでも受付を開始します。以下の必要事項を必ず記入して下さい。



1. 受講日(4日間受講もしくは、受講希望日)
2. お名前(ふりがなを忘れなく！)
3. 性別
4. 職業(学生の場合は、学校名/学部又は学科/学年)
5. メールアドレス
6. 電話番号
7. 郵便番号と住所
8. お問い合わせなどがあれば・・・

※1.～5.は必須項目です。漏れがあると受付NGです！



<http://www.apdj.or.jp>

★ホームページをご覧ください。



電話受付・お問合せ：月～金 13:00～17:30

協同組合 日本映画・テレビ美術監督協会
「映画美術スタッフ塾」実行委員会事務局
〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-15-14 パンチョスタワー2F
TEL&FAX:03-3353-4660 E-mail:info@apdj.or.jp



京王線・京王新線(都営新宿線乗入れ)
新宿駅から特急で15分 京王線調布駅下車

主催：文化庁/協同組合 日本映画・テレビ美術監督協会 制作：協同組合 日本映画・テレビ美術監督協会